

ふくしま

再生 短信

15年ぶり山津見神社例大祭2025 12/04-12/06

人間と自然の共生
オオカミと生きる

2025年12月4日～6日、右福島県相馬郡飯館村佐須地区にある山津見神社の例大祭が震災後15年ぶりに復活。記者は5日・6日現地に。3回にわたり報告する。

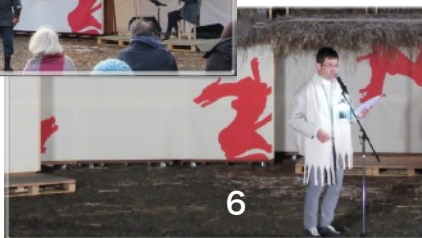
恒例「佐須の茶屋」(写真1)

は茅葺の本格構造で参道に展開する露店群(写真

5



6



2016年に奉納され復元した拝殿のオオカミ天井絵が各地から集う参拝客を迎える(写真4)。

拝殿前の屋外舞台上で5日・6日両日演

この中心に。各テブルーには煌々と

輝く堀炬燵(写真3)に

熱々のおでんやうどんが嬉しい。

全焼の惨事から

復興の営みを現代に問う

「詩の奉納(辞ことば) 神楽狼」(詩、朗読和合亮二)では作者の

演 出 野 宮 有 姫、虎 捕山の伝 承から原発 事故を経て、 自然と共生す る飯館の営み

を現代に問う (写真5)。

朗々とした音声(おんじょう)が杜に響き渡る(写真6)。

祭りの賑わいの中で会場内を走りまわる若い皆さんの姿に祭りの新しい形を垣間見た。

今春以来、佐須氏子総代会(佐藤公二代表)、図図倉庫グループ、ふくしま再生の会ほかの参加により山津見神社例大祭実行委員会(阿部猛会長・田尾陽二事務局長)が地域文化の継承発展に注力してきた。

一時は、存

続が危ぶまれていた虎捕太鼓が福島大学の皆さんの手により、村の奏者の指導を受けながら復活、折しも満月の下で奉納された(写真7)。

(写真4は伊賀和子さん提供・他は筆者撮影、文責・若林一平)

復元したオオカミ天井絵

再生の会の参拝団有志は5日夕刻、2016年復元オオカミ絵奉納当時の氏子総代菅野永徳さん宅訪問。永徳さん「久美さんが学生さんとお参りに来てくれました」。

加藤久美和歌山大学大学院観光学研究科教授は天井絵復元の立役者のひとり、ありがたみを込めてのひとことだ。

2



じられたのは「虎捕山縁起」(作)

朗々とした音声(おんじょう)が杜に響き渡る(写真6)。

祭りの賑わいの中で会場内を走りまわる若い皆さんの姿に祭りの新しい形を垣間見た。

今春以来、佐須氏子総代会(佐藤公二代表)、図図倉庫グループ、ふくしま再生の会ほかの参加により山津見神社例大祭実行委員会(阿部猛会長・田尾陽二事務局長)が地域文化の継承発展に注力してきた。

一時は、存

7



続が危ぶまれていた虎捕太鼓が福島大学の皆さんの手により、村の奏者の指導を受けながら復活、折しも満月の下で奉納された(写真7)。

(写真4は伊賀和子さん提供・他は筆者撮影、文責・若林一平)

復元したオオカミ天井絵

再生の会の参拝団有志は5日夕刻、2016年復元オオカミ絵奉納当時の氏子総代菅野永徳さん宅訪問。永徳さん「久美さんが学生さんとお参りに来てくれました」。

加藤久美和歌山大学大学院観光学研究科教授は天井絵復元の立役者のひとり、ありがたみを込めてのひとことだ。